

プラズマエレクトロニクス

No. 12

1990年6月

応用物理学会
プラズマエレクトロニクス分科会会報

目 次

| | |
|--|----|
| 1. 「プラズマエレクトロニクス分科会の設立にあたって」 橘 邦英 | 1 |
| 2. 「プラズマエレクトロニクス研究会委員長の退任にあたって」 加藤 勇 | 3 |
| 3. プラズマエレクトロニクス研究会の歩み | 5 |
| 4. 寄稿 1990年春季第37回応用物理学関係連合講演会 -プラズマエレクトロニクス分科に出席して- | 11 |
| 5. 行事案内 | 13 |
| ◇第5回光源物性とその応用研究会 | |
| ◇平成2年秋季応用物理学学会 | |
| -プラズマエレクトロニクス分科非晶質 | |
| 分科との合同セッション講演会- | |
| ◇プラズマエレクトロニクス講習会『反応プラズマと材料プロセスの基礎』 | |
| 6. 掲示板 | 15 |
| 7. 文部省科研費・重点領域研究「反応性プラズマの制御」 | 16 |
| 8. プラズマエレクトロニクス分科会平成2年度役員 | 18 |
| 9. プラズマエレクトロニクス分科会会員名簿 | 20 |
| 10. 編集後記 | 27 |

プラズマエレクトロニクス 分科会の設立にあたって

幹事長 橘 邦 英

会員の皆様方の御支援と御尽力により、応用物理学会のプラズマエレクトロニクス研究会が、本年4月より分科会に改組されました。分科会の目指すところは、従来の研究会の時と特に変わりはありませんが、プラズマエレクトロニクスが包含する分野の広がり、会員の増加、活動の拡大などにつれて、応用物理学会傘下の組織として、より確固とした組織の分科会に昇格させておくことが必要との判断によるものです。例えて申しますと、応用物理学会の中で研究会は被扶養家族のような存在でしたが、分科会は参政権をもった成人ということになります。

省みますと、プラズマエレクトロニクス研究会が発足してから、既に5年の歳月が過ぎました。歴代の堤井、後藤、加藤各委員長の下で、応用物理学会の「放電・プラズマ・核融合」分科の再活性化を期して、「プラズマエレクトロニクス」分科へと改組したのを始め、研究会は当初の目的を十分に果たしてきました。さらに、「プラズマプロセッシング」や「光源物性とその応用」などの研究会を通じて、十分な地盤が築き上げられてきました。

分科会昇格を契機に、プラズマエレクトロニクスという分野が、今後ますます発展を遂げるためには、まず何よりも、若手研究者層の育成が肝要と感ぜられます。この分野の重要性と可能性を、次世代を担う若い研究者の方々に認識して頂き、本分科会の活動や企画に積極的に参加し、新しい発展の原動力となって欲しいと願っています。

ところで、近年は未曾有の求人難の時代となっています。会社で良い人を採用するためには、他社より魅力的な仕事ができる場を提供する必要があります。大学の研究室の配属についても事情は同様です。かつて、

放電や電離気体に関する科目が応用物理や電気系学科の主要科目の一つであったように、プラズマエレクトロニクスという分野が、再び教科科目に取り上げられる時代がくるよう願っていますが、そのためには、現在この分野が、若い学生や研究者層に十分にアトラクティブである必要があります。

幸い、弱電離プラズマの応用分野が、近年急速に発展しており、その中には、プラズマによる材料プロセス、イオンやラジカルなどの粒子線源、光プロセスなど工業用の短波長光源、コンピュータ端末やハイビジョン用受像機としてのカラープラズマディスプレイなどの研究開発が含まれています。これらの応用技術を支える基礎として、プラズマエレクトロニクスの教育研究の重要性が高まってきているように思えます。

このような状況に鑑み、本分科会では、当面の活動計画を次のように設定しています。まず、上記の二つの研究会は、既に国内で有数の研究会として認められておりますので、この財産を上手に育てていきたいと考えております。さらに、一つの新しい試みとして、秋頃に、プラズマエレクトロニクス講習会を企画しております。これは、主に若手研究者や、この分野に新しく参入された研究者を対象に、プラズマエレクトロニクスの基礎や現状を、実習を含めて研修をしてもらうことを目的としています。参加者各位が、この分野の魅力を感じ取って、今後の研究活動に活かして頂けるよう、講師や内容を検討しています。

そのほか、本分科会の活動や運営に関して、御希望や御意見等ございましたら、遠慮なく幹事長や幹事までお知らせ下さい。

プラズマエレクトロニクス研究会委員長の退任にあたって

早稲田大学理工学部

加藤 勇

プラズマエレクトロニクス研究会は1985年1月に設立されて以来、研究会の開催や応用物理学会プラズマエレクトロニクス分科内講演の企画等、後にとりまとめてありますように種々の活動を行ってきました。私は本研究会の設立に参加し、委員を2年間務め、その後1988年4月より委員長を務めて参りましたが、本年3月で任期が満了し、委員長を退任しました。この間、委員の皆様また、会員の皆様には多大の御協力を頂き、本研究会を発展させることができましたことを、大変有難く存じております。

委員長退任にあたって、プラズマエレクトロニクス分科会発足に至る経緯について書くようにとの依頼を受けました。私が委員長になった頃には、従来の研究会活動が発展してくるとともに、会員数も増加してきて、当研究会を分科会へと昇格させた方がよいのではないかと意見が聞かれるようになってきました。応用物理学会では、研究会の新しい研究グループの初期における時限的な会、または新しい研究会活動を育成して行くための会との見方があるようです。そこで、応用物理学会は年間10万円程度の活動費を研究会に援助しています。当研究会も応用物理学会より、会報や名簿発行などの援助金として年間11万円の活動費を頂いてきました。この活動援助金は6～7年間は継続できるようです。

研究会活動が活発になり、また会員数が300名程度になると、応用物理学会で正式に認められた分科会に発展させることができます。学会としても今後も活発なる活動が続きそうな研究会を分科会に昇格させることを奨励しています。このような応用物理学会の意向もさることながら、当研究会をより発展させるためには、我々としては活動資金面の基盤も確立していく必要が生じてきました。そこで、分科会設立について会員の皆様のご意見を広く求め、委員の皆様にも種々ご検討して頂いてまいりました。1988年秋季応用物理学会会期中に行われたInformal Meetingにて、分科会に移項するとの意志決定をして頂きました。

その後も、会員のご意見を頂きながら、準備活動を続け、1989年秋季応用物理学会会期中のInformal Meetingでは、分科会設立準備委員長として、橘 邦英氏を選出して頂きました。そして、1990年4月より分科会を発足させるべく、準備を進めることに致しました。応用物理学会には1989年10月に「プラズマエレクトロニクス分科会設立趣意書」「同分科会規則」「分科会設立発起人、発足時

の役員予定者リスト」等を作り、プラズマエレクトロニクス分科会の設立申請をしました。その内容については、プラズマエレクトロニクス研究会会報No.11をご覧下さい。同年11月の応用物理学会の理事会にて、従来の当研究会活動および分科会設立の準備状況について説明を行い、分科会の設立を認めるとの内諾を理事会から頂きました。これをもって、研究会を発展的に解消して、1990年4月より分科会を発足できることになりました。

分科会会員は、研究会会員をそのまま移行するのではなく、新規に募集することになっていますので、1990年1月のプラズマプロセッシング研究会の会場において、第1回の募集案内が、分科会設立準備委員長より出されました。その後、皆様方のご協力を得て、入会手続きは順調に進み、また、応用物理学会の3月の総会ではプラズマエレクトロニクス分科会の設立が正式に決定されました。1990年春季応用物理学会会期中のInformal Meetingで、分科会設立申請時の予定どおり、幹事長として橘 邦英氏、常任幹事として渡辺 征夫、真壁 利明の両氏が承認され、また研究会委員のうち、任期満了となっていない委員が幹事として承認されるとともに、新しい幹事も選出され、分科会役員全員が決まり、順調に分科会発足を見たわけでございます。

その後、分科会会員数も増加し続け当初目標数の300名を達成しそうと聞いておりますが、さらに分科会活動を活発にして会員数も増加できますように、分科会幹事長をはじめとする幹事の皆様の活躍と、会員の皆様のご協力をお願いするものでございます。

プラズマエレクトロニクス研究会の歩み

プラズマエレクトロニクス研究会は1985年1月に発足し、分科会へ発展するまでに5年半程を経過しました。その足跡を記録に留めておくことは、今後の活動の一助になると思われます。そこでここに、研究会の会報を参考にまとめておくことにします。なお 1988年4月までの記録は会報No.8に詳しく記載されております。

1. 会員数の推移

| 1985(S.60) | 1986(S.61) | 1987(S.62) | 1988(S.63) | 1989(S.64) |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| 140 | 168 | 192 | 220 | 290 |

2. プラズマエレクトロニクス研究会主催の研究会

[1] プラズマプロセッシング研究会

| | 日時 | 会場 | 講演件数 | 参加者 | 企画委員 |
|-----|-----------------|-----------------------|---------------|------|--|
| 第1回 | 1984.1 18～20 | 愛知会館 (名古屋) | 30及びパ ネル討論 | 約80 | 共催グループから数名 現地責任者 後藤俊夫 |
| 第2回 | 1985.1 29～31 | 平安会館 (京都) | 62 | 約150 | 菅原 実 板谷良平 後藤俊夫 橘 邦英 |
| 第3回 | 1986.1 28～30 | きのこ会 館(桐生) | 57 | 約150 | 板谷良平 後藤俊夫 橘 邦英 菅原 実 |
| 第4回 | 1987.1 29～31 | 慶大理工 (横浜) | 75 | 約210 | 真壁利明 岡田富男 柳原健児 市川幸美 |
| 第5回 | 1988.1 28～30 | 婦人総合 センター (江ノ島) | 84 | 約250 | 真壁利明 岡田富男 柳原健児 市川幸美 中山喜萬 三戸英夫 宮地賢司 松村昭作 |

| | 日 時 | 会 場 | 講演件数 | 参加者 | 企 画 委 員 |
|-----|-----------------|----------------------------|---------------------------------------|------|---|
| 第6回 | 1989.1 25~27 | 厚生年金 休暇セン ター (京都) | 指定講演 5 一般講演 74 ワークショップ 5 | 約310 | 細川直吉 松村昭作 宮地賢司 落合 勳 大手丈夫 中山喜萬 橋 邦英 高井祐司 田中 誠 |
| 第7回 | 1990.1 25~26 | 東京工大 (東京) | 特別講演 1 指定講演 1 一般講演 126 | 約340 | 野崎秀俊 旗野嘉彦 高井祐司 吉田 隆 田中 誠 河内宣之 落合 勳 田久保嘉隆 大手丈夫 伴野達也 吉本昌広 平松美根男 林 康明 中村義春 |

[2]光源物性とその応用研究会

| | 日 時 | 場 所 | 講演件数 | 参加者 | 企 画 委 員 |
|-----|---------------|----------------|---------|-----|-----------|
| 第1回 | 1986 7.18 | 明治大学 (東京) | 4* | 70 | 荒井俊彦 川崎昌博 |
| 第2回 | 1987 7. 6 | 公害研 (筑波) | 11 | 50 | 川崎昌博 井上 元 |
| 第3回 | 1988 10.17 | 国立教育 会館(東京) | 3* 7 | 80 | 川崎昌博 井上 元 |
| 第4回 | 1989 7.26 | 東京工大 (東京) | 6 | 60 | 河内宣之 井上 元 |

(注) *印は招待講演、また照明学会側委員は省略

3. 応用物理学会プラズマエレクトロニクス分科内講演

| 開催時期 | 一般講演 件数 | シンポジウム (参加者数) | 総合講演 (参加者数) | 分科世話人 |
|-------------|------------|------------------|----------------|-----------------|
| 1985 春 秋 | 24 | 9(320) | — | 堤井信力、横沢美紀、鈴木節雄 |
| | 24 | 8(280) | — | |
| 1986 春 秋 | 35 | 10(250) | 1(250) | *堤井信力、鈴木節雄、加藤 勇 |
| | 32 | — | 2(250) | |
| 1987 春 秋 | 44 | 6(700) | — | 加藤 勇、野田悦夫、旗野嘉彦 |
| | 44 | 5(250) | — | |
| 1988 春 秋 | 55 | — | 1(150) | 加藤 勇、野田悦夫、旗野嘉彦 |
| | 59 | 8(300) | — | |
| 1989 春 秋 | 81 | 5(400) | — | 加藤 勇、野田悦夫、旗野嘉彦 |
| | 70 | 6(250) | — | |
| 1990 春 | 88 | 6(400) | — | |

(注)*印は放射線プラズマ大分類分科代表世話人

*シンポジウム及び総合講演のテーマ

- 1985 春 (シ) プラズマ物性とその応用—プラズマエレクトロニクスの発展をめざして
 秋 (シ) SiH₄, Si₂H₆プラズマの計測とモデリング
- 1986 春 (総) 光化学反応の素過程
 (シ) プラズマエレクトロニクスの応用としての光源の諸物性
 秋 (総) 各種イオン源とイオン発生機構
 アモルファス半導体薄膜作製におけるプラズマ制御
- 1987 春 (シ) プラズマプロセスと光プロセスの現状と問題点
 秋 (シ) X線源とその応用
- 1988 春 (総) 偏光変調赤外分光によるCVDなどの表面過程の研究
 秋 (シ) プロセスプラズマにおける磁界の応用
- 1989 春 (シ) マイクロ波プラズマの生成とそれをを用いたプロセスの特長
 秋 (シ) プロセッシングプラズマの分光計測および素過程
- 1990 春 (シ) プロセッシングプラズマのモデリング

4. 他の研究会等に対する共催、協賛

1985. 6 放電研究グループとの共催研究会
 テーマ「平面ディスプレイデバイスの現状と将来」
 1986.11 第3回プラズマ化学シンポジウム ISPC-8 プレシンポジウム協賛
 1987. 6 協賛シンポジウム
 テーマ「アークプラズマの先端技術への応用」
 8 第8回プラズマ化学国際シンポジウム協賛
 1988.10 協賛シンポジウム
 テーマ「放電研究における情報処理 Part 1 計測と解析」

5. Informal Meeting 「プラズマエレクトロニクス研究会」

| | 日時 | 場所 | | 日時 | 場所 |
|-----|------------|--------|------|------------|--------|
| 第1回 | 1984.10.14 | 岡山大学 | 第7回 | 1987.10.19 | 名古屋大学 |
| 第2回 | 1985. 3.31 | 青山学院大学 | 第8回 | 1988. 3.29 | 法政大学 |
| 第3回 | 1985.10. 2 | 京都大学 | 第9回 | 1988.10. 6 | 富山大学 |
| 第4回 | 1986. 4. 2 | 日本大学 | 第10回 | 1989. 4. 2 | 千葉大学 |
| 第5回 | 1986. 9.28 | 北海道大学 | 第11回 | 1989. 9.29 | 福岡工業大学 |
| 第6回 | 1987. 3.30 | 早稲田大学 | 第12回 | 1990. 3.30 | 東洋大学 |

6. 研究会会報「プラズマエレクトロニクス」発行

- | | | | |
|-------|----------|--------|----------|
| No. 2 | 1985年 5月 | No. 7 | 1987年11月 |
| No. 3 | 1985年11月 | No. 8 | 1988年 7月 |
| No. 4 | 1986年 5月 | No. 9 | 1988年12月 |
| No. 5 | 1986年11月 | No. 10 | 1989年 6月 |
| No. 6 | 1987年 5月 | No. 11 | 1989年12月 |

(注)No.1 1984年11月は設立準備号、No.1~3はインフォーマルミーティングの議事録を会員に送付したもので会報としている。No.4より別の冊子になった。

7. 研究会会員名簿発行

- | | | | |
|-----|----------|-----|----------|
| 第1回 | 1985年11月 | 第3回 | 1987年11月 |
| 第2回 | 1986年11月 | 第4回 | 1989年 2月 |

8. プラズマエレクトロニクス研究会役員

| 期 間 | 委員長 | 幹事 (*印) 及び委員 | 事務局 |
|-----------------------|--------------------------------|--|------------------------------|
| 1985.1 ～ 1986.3 | 堤井信力 (武蔵工大) | *後藤俊夫(名大工) 橘 邦英(京都工繊大) 大内幹夫(東京電機大) 荒井俊彦(幾徳工大) 加藤 勇(早大理工) 松田彰久(電総研) | 名 大 |
| 1986.4 ～ 1987.3 | 後藤俊夫 (名大工) | *真壁利明(慶大理工) 河野明広(名大工) 橘 邦英(京都工繊大) 市川幸美(富士電機) 荒井俊彦(幾徳工大) 岡田富男(群馬大工) 松田彰久(電総研) 川崎昌博(三重大工) 柳原健児(日本合成J' A) | 工 |
| 1987.4 ～ 1988.3 | 後藤俊夫 (名大工) | *真壁利明(慶大理工) 河野明広(名大工) 市川幸美(富士電機) 豊島安健(電総研) 岡田富男(群馬大工) 中山喜萬(大阪府大) 川崎昌博(三重大工) 西村幸雄(九大生研) 松村昭作(武蔵工大) 柳原健児(日本合成J' A) 三戸英夫(日電アソバ) 宮地賢司(三井東圧) | |
| 1988.4 ～ 1989.3 | 加藤 勇 (早大理工) 野崎秀俊 (東芝) | *野崎秀俊(東芝総研) 中山喜萬(大阪府大) 西村幸雄(九大生研) 松村昭作(武蔵工大) 細川直吉(日電アソバ) 宮地賢司(三井東圧) 石川稜威男(山梨大工) 井上 元(公害研) 大木義路(早大理工) 大手丈夫(群馬高専) 落合 勳(日立中研) 高井裕司(東京電機大) 田中 誠(三洋電機) 豊島安健(電総研) | 早 大 理 工 |
| 1989.4 ～ 1990.3 | 加藤 勇 (早大理工) | *野崎秀俊(東芝総研) 大木義路(早大理工) 高井裕司(東京電機大) 石川稜威男(山梨大工) 井上 元(公害研) 田中 誠(三洋電機) 落合 勳(日立中研) 大手丈夫(群馬高専) 吉本昌広(京大工) 林 康明(日本真空) 吉田 隆(富士電機) 河内宣之(東工大理) 田久保嘉隆(東農工大) 伴野達也(東大工) 平松美根男(名城大) 下妻光夫(北大医技短) 中村義春(慶大理工) | |

(注)1984.10~1984.12はプラズマエレクトロニクス談話会、1985.1よりプラズマ
エレクトロニクス研究会

寄稿

1990年春季第37回応用物理学関係連合講演会
—プラズマエレクトロニクス分科に出席して—

熊本大学工学部
蛭原健治

東洋大学朝霞校舎で行われた本年度の応用物理学会「プラズマエレクトロニクス」分科会における講演会では88件の一般講演と6件のシンポジウムが行われた。講演件数はほぼ定着してきており、分科世話人の方々のこの分科の発展に対するこれまでの御熱意と御努力に謝意を表したいと思います。

さて、今回の分科会の特徴として注目されることは、先ず29日午後のポスターセッションにおける19件の発表であろうと思います。ポスターセッションは、会場への参加者も多く、発表者との情報交換、研究内容の詳細についての討議が直接できる点で、これからのこの分野の研究に着手しようとしている研究者、および大学院生には有益なものと思われる。特に最近のようにプラズマプロセスに関する発表が薄膜・表面、超伝導、半導体、非晶質などの分科で同時に発表されている状況ではポスターセッションは積極的に導入して行くべきであろうと思います。例えば上記の他分科のポスターセッションと同時に同会場で行うなどの工夫をすれば研究者にとっては有難いことだと思います。

次にECRプラズマプロセスの研究発表が10件近くになっております。材料生成やエッチングにおけるECRの特長が工業的に注目されている折に、この分科でもそれと対応した研究がなされていることを示すことになるかと思えます。RFプラズマにおいてなされているモデリングの研究がこのECRの分野に早く適応され、ECRの異方性プラズマプロセスに対応する新しい知見が得られないものかと考えられました。

プラズマエレクトロニクス分科会の講演を聴講している研究者の年齢層や所属を見てみると、現在では大学院生や若手研究者、また企業の第一線の研究者も多く将来的な期待が持てるように思います。しかし、さらに活気があり、社会の要請に応

え得る分科として成長して行くためには、他分科会への参加及び他国のプラズマプロセス関係学会との積極的交流が必要ではないかと常々感じさせられております。研究内容、研究成果、研究テーマの客観的評価をする上で、有効な手段だと思いません。プラズマエレクトロニクス分科会に一度発表した人が、次の学会で再度発表してみようとする意欲をかきたてる程に新参入者に対して魅力のある分科会にするには、他分科会の実情を理解し、プラズマエレクトロニクスに関する研究テーマを積極的に早急に見い出す努力が必要だろうと思えます。プラズマ化学国際会議には、この分科会の研究者も多数参加されましたが、その他の国際会議、外国語学会などの積極的な交流を通してプラズマエレクトロニクス分科会を日本だけの研究グループではなく、国際的な研究組織へと拡大できないものかと考えております。

学会に参加している研究者は当面の研究内容の詳細以上に将来何をしようか、この分科には発展性があるのか、帰ったらどういう方針で研究しようかと考えながら、講演会場の硬い椅子にもじもじしながらへばり付いている状況だと思います。この分科が、これらの研究者の要求に長期的に十分に応えられる様な研究組織に発展して行くことを願っております。

行事案内

1. 第5回 光源物性とその応用研究会

本研究会は応用物理学会 プラズマエレクトロニクス分科会と照明学会 光の発生・関連システム及び光放射の応用・関連計測 両研究専門部会の主催で毎年行っているものです。本年も以下のような予定で開催いたします。多数の御来聴を歓迎いたします。

- ・日時 7月26日(木) 10:30~17:00
- ・場所 機械振興会館6-66号室(東京都港区芝公園3-5-8)
TEL.03-434-8211
東京タワー前(地下鉄「神谷町」下車、徒歩10分)
- ・プログラム
テーマ「光源プラズマのモデリングとその応用」
 - 1) 光源プラズマの素過程
名古屋大学(工) 電子工学科 後藤俊夫
 - 2) エキシマーレーザー増幅器中の反応過程とレーザー効率
電気通信大学レーザー極限技術センター 植田憲一
 - 3) RFプラズマの制御
東京電機大学(工) 電子工学科 六倉信喜
 - 4) 低圧水銀-希ガス放電のモデリングとプラズマメータ
松下電子工業(株) 電子総合研究所 和邇浩一
 - 5) メタルハライドランプのアーク温度の解析
東芝ライテック(株) 石神敏彦、杉山春夫
- ・参加費 応用物理学会 上記分科会会員及び照明学会 上記研究専門部会会員は無料、その他は、2,000円
予稿集ご希望の方にはお送り致します(郵送料実費)
- ・問い合わせ先 〒152 目黒区大岡山 2-12-1 東工大(理) 化学 河内宣之
〒569 高槻市幸町 1-1 松下電子工業(株) 電子総合研究所
第3研究部 和邇浩一

2. 平成2年度秋季応用物理学会におけるプラズマエレクトロニクスと非晶質分科合同セッション講演会

プラズマエレクトロニクス分科では、秋季講演会(岩手大学 9/26~29)において従来の単独のセッションに加えて、非晶質分科と「シラン系プラズマと表面反応・膜構造」というテーマで合同セッションが開かれる。

3. プラズマエレクトロニクス講習会『反応プラズマと材料プロセスの基礎』

協賛(申請中)：日本物理学会、電気学会、電子情報通信学会、日本化学会、高分子学会、日本真空協会、電気化学協会、日本セラミックス協会、放電研究グループ

日時：10月 5日(金) 10:00~18:00
6日(土) 9:30~16:30

場所：藤山記念会館(慶応義塾大学日吉校舎、東横線日吉駅下車徒歩3分
TEL 044-63-1111)

演題：1) プロセス用反応性プラズマとは 渡辺征夫(九大工)
2) 反応性プラズマにおける原子分子基礎過程 橘 邦英
(京都工繊大)
3) プラズマの発生、輸送、維持機構 菅井秀郎(名大工)
4) プラズマCVD 松田彰久(電総研)
5) プラズマエッチング・スパッタリング 細川直吉
(日電アネルバ)
6) 反応性プラズマのモデリング 真壁利明(慶大理工)
7) シュミレーション実習

参加費(テキスト代を含む)：

| | プラズマエレクトロニクス 分科会員 | 応用物理学会 協賛学会員 | その他 |
|----|----------------------|-----------------|---------|
| 一般 | 23,000円 | 26,000円 | 30,000円 |
| 学生 | 10,000円 | 15,000円 | 20,000円 |

定員：70名

申込方法：振込依頼書(銀行)に ①受講者名、②所属、③連絡先を明記のうえ
下記銀行口座に振込み、必ず、振込票のコピーを学会まで送付のこと

応用物理学会プラスマエレクトロニクス分科会講習会係
(略称:プラスマエレクトロニクス講習会係)
応用物理学会(〒102 東京都千代田区九段北1-2-6国松ビル4階)

参加締切： 9月25日(金) 定員に達し次第締切

問い合わせ先：〒223 横浜市港北区日吉3-14-1 慶大理工 真壁利明

〒300-26 つくば市東光台5-9-7 日本真空技術(株) 林 康明

…☆…☆…☆…☆…☆…☆…☆…☆…

掲 示 板

応用物理学会より幹事長宛に以下の推薦依頼が来ております。適任者を御心当たりの方は幹事長まで御連絡下さい。なお、候補者多数の場合は幹事長に御一任下さい。

- (1) 第30期応用物理学会理事 締切 9月10日
- (2) 応用物理学会功労会員 締切 6月30日

文部省科研費・重点領域研究 「反応性プラズマの制御」

領域代表者、板谷良平京大教授より以下のように公募研究審査結果の概要を寄稿して頂きました。

平成2年度公募研究審査結果の概要

重点領域研究「反応性プラズマの制御」も本年度は第三年目にあたり、いよいよ最終年度を迎えた。応募の総数は100件で、初年度の121件、昨年度の95件に比して遜色のない数であった。100件中に総括班の1件、計画研究の10件が含まれているので、公募研究は89件であった。

審査は、昨年に準じて研究計画調書並びにその概要に基づいて、8名の審査委員により、厳正に行われ、32件の課題が採択された。第一年度の32件、第二年度の26件に比べ、第三年度も初年度と同じ件数となった。第二年度から計画研究に移行した7件、今年度計画研究に移行した1件を加えると、最終年度にも拘らず大幅な増加となっている。各研究項目毎の公募研究の応募と採択の件数は表1の通りである。

表1 応募件数と採択件数

| 研究項目 | 応募件数 | 採択件数 |
|----------------|------|------|
| A01 空間反応選択性の制御 | 17 | 8 |
| A02 表面反応選択性の制御 | 19 | 7 |
| A03 複合過程の解析 | 17 | 4 |
| A04 プラズマの新発生法 | 23 | 7 |
| A05 プラズマの新計測法 | 13 | 6 |
| 合 計 | 89 | 32 |

平成2年度の本領域への当初配分額は昨年より15%弱増加して、2億2800万円であり、計画研究に1億5060万円、公募研究に6640万円、総括班に1100万円の配分となった。配分額に関する統計は表2の通りである。

今年度は最終年度であるので、重点領域研究全体として取りまとめの方向を強く意識すると共に、それでも尚新しい可能性に対して常に門戸を開いておく努力が払われたようである。即ち、最終年度であるにも拘らず、新規に採択された課題は12件あり、A01とA02に各2件、A03とA04に各3件、A05に2件で残りの20件は昨年に引き続いての採択であった。表3は過去三年間の公募研究の採択課題数の変遷をまとめたものである。

表2 配分金額

| 項目 | 件数 | グループ数 G | 人数 N | 金額Y 百万円 | Y/G 千円 | Y/N 千円 |
|------|----|------------|---------|------------|-----------|-----------|
| 計画研究 | 10 | 30 | 83 | 150.6 | 5020 | 1814 |
| 公募研究 | 32 | 32 | 74 | 66.4 | 2075 | 897 |
| 合計 | 42 | 62 | 157 | 217.0 | 3500 | 1382 |
| 総括班 | - | - | - | 11.0 | - | - |

表3 公募研究の採択課題数の変遷と内訳

| | 1年度 | 2年度 | 3年度 | 1～3年度 |
|---------|-----|-----|-----|-------|
| 採択課題数 | 32 | 28 | 32 | |
| 内 継続課題数 | | 21 | 20 | 16 |
| 新規課題数 | 32 | 7 | 12 | |
| 計画移行課題数 | | 5 | | |

さて、今年度の審査をもって本重点研究の審査会は店を閉じた。3回の審査会を振り返って、今後の参考になるような事項について以下に述べる。

まず、研究計画調書には迫力と説得力とが必要である。読むうちにイメージが湧くようであれば最高であろう。研究計画調書の記載が余りにも簡単過ぎて、何について何処までのことを説明しようとしているのか、判読することができないもの、研究の方法は詳しく書いてあっても、何故そうするのか目的意識が明確でないもの、あるいは、効能は沢山書いてあるが、それをどのように実現するのか、どこに新しさがあるのか、読み取れないもの、などは説得力欠如と言えよう。やはり、研究計画調書は、審査に当たる人の心に迫るものが必要ではなからうか。

ついで、組織の規模や、研究計画の内容に比べて、金額が余りにも過大、あるいは過小な計画は本当にできるのかと首を傾げさせる。また、研究組織としても適切なサイズが望ましい。毎年発行されている文部省科学研究費補助金採択課題公募審査要覧を参考にすることも無益ではなからう。

以上、今後の科学研究費の申請の時の研究計画立案に参考になれば幸いである。

プラズマエレクトロニクス分科会 平成2年度役員

幹事長 橘 邦英 京都工芸繊維大学 工芸
学部 電子情報工学科

副幹事長 渡辺 征夫 九州大学 工学部
(編集担当) 電気工学科

副幹事長 真壁 利明 慶応義塾大学 理工学部
(庶務担当) 電気工学科

幹事 蛭原 健治 熊本大学 工学部
電子工学科

幹事 黒木 幸令 日本電気(株) マイクロ
エレクトロニクス研究所

幹事 進藤 春雄 広島大学 工学部
第2類 (電気系)

幹事 松井 安次 三菱電気(株) 中央研究所
(会計担当) エネルギー研究部

幹事 三宅 正司 大阪大学 溶接工学研究
所 第1部門

幹事 和邇 浩一 松下電子工業(株) 電子
(光源物性研究会) 総合研究所 第3研究部

幹事 河内 宣之 東京工業大学 理工学部
(光源物性研究会) 化学科

幹事 下妻 光夫 北海道大学 医療技術
(編集担当) 短期大学部
兼 インフォーム担当)

幹事 田久保嘉隆 東京農工大学 工学部
応用物理学科

幹事 中村 義春 慶応義塾大学理工学部
(庶務担当) 電気工学科

幹事 林 康明 日本真空技術(株)
超材料研究所

幹事 伴野 達也 東京大学 工学部
物理工学科

幹事 平松美根男 名城大学 理工学部
電気電子工学科

幹事 吉本 昌広 京都大学 工学部
電気工学第二学科

幹事 吉田 隆 (株)富士電機総合研究所
(会計担当) 電子デバイス研究所

プラズマエレクトロニクス分科会
会員名簿

平成2年5月現在
アイウエオ順

| | | |
|---------|--------------------|---------------------|
| ア 明石 和夫 | 東京理科大学 理工学部 | 電気工学科 |
| 荒井 俊彦 | 神奈川工科大学 | 電気工学教室 |
| 有方 市雄 | 姫路工業大学 | 一般教養 |
| 飯島 徹穂 | 東京職業訓練短期大学校 | 電気電子工学科 |
| 生田 信浩 | 徳島大学 工学部 | 技術課 |
| 生地 望 | (株)島津製作所 産業機械第二工場 | 電気情報工学科 |
| 池上 知顕 | 熊本大学 工学部 | 第7部 |
| 池川 正人 | (株)日立製作所 機械研究所 | 研究6部 表面化学研究室 |
| 石井 昌彦 | (株)豊田中央研究所 | 電子情報工学科 |
| 石川 稜威男 | 山梨大学 工学部 | プラント事業開発部 電気計装開発Gr. |
| 石川 義康 | 新日本製鐵(株) 機械プラント事業部 | 第5研究室 |
| 泉 宏比古 | 超伝導工学研究所 | 電子工学教室 |
| 板谷 良平 | 京都大学 工学部 | 電子工学科 |
| 板橋 直志 | 名古屋大学 工学部 | 電子工学科 |
| 市川 勝 | 名古屋大学 工学部 | 電子デバイス研究所 |
| 市川 幸美 | (株)富士電機 総合研究所 | P開発グループ |
| 一ノ瀬 修一 | セイコーエプソン | |
| 伊吹 紀男 | 京都大学 化学研究所 | |
| 鶴飼 正敏 | 東京工業大学 理学部 | 電子通信学科 加藤研 |
| 臼居 隆志 | 早稲田大学 理工学部 | 要素設計部 第8部門 |
| 江浦 茂 | 浜松ホトニクス(株) システム事業部 | E事業第2開発室 |
| 越前 裕 | キャノン(株) 長浜工場 | 電気情報工学科 |
| 蛭原 健治 | 熊本大学 工学部 | |
| 笈川 節子 | 千葉大学 薬学部 | 電気工学科 |
| 大木 義路 | 早稲田大学 理工学部 | 電気工学科 |
| 大崎 堅 | 山口大学 工業短期大学部 | |
| 太田 与洋 | 川崎製鉄(株) 新素材研究センター | 電気工学科 |
| 大手 丈夫 | 群馬工業高等専門学校 | ビーム物理研究部 第1グループ |
| 大寺 廣樹 | 三菱電機(株) 中央研究所 | 加工技術部 |
| 大西 寛 | 三菱電機(株) 生産技術研究所 | 電気工学専攻 |
| 大堀 公司 | 茨城大学 工学部 | 電子技術科 |
| 大森 義行 | 北海道職業訓練短期大学校 | 電気工学科 |
| 岡田 龍雄 | 九州大学 工学部 | 第3研究部 |
| 尾形 芳郎 | 松下電子工業(株) 電子総合研究所 | 電子工学科 |
| 岡野 大祐 | 熊本工業大学 工学部 | 技術部 |
| 岡本 興司 | (株)共和電業 技術本部 | 分子工学専攻 |
| 小川 禎一郎 | 九州大学 総合理工学研究科 | 電気工学科 |
| 小城 左臣 | 北九州工業高等専門学校 | 研究開発グループ |
| 荻野 悦男 | 日本板硝子(株) 筑波研究所 | 電子情報工学科 |
| 沖村 邦雄 | 福井工業高等専門学校 | 電気工学科 |
| 奥田 健一 | 岐阜工業高等専門学校 | |

| | | |
|---------|-------------------------|---------------------|
| 奥野 喜裕 | 佐賀大学 理工学部 | 電気工学科 |
| 小久見 善八 | 京都大学 工学部 | 工業化学教室 |
| 小倉 正義 | 三洋電機(株) 筑波研究所 | 半導体微細加工研究室 |
| 小田 俊理 | 東京工業大学 工学部 | 電子物理工学科 |
| 落合 勲 | (株)日立製作所 中央研究所 | 第4部 |
| 斧 高一 | 三菱電機(株) 中央研究所 | ビーム物理研究部 第1グループ |
| 小野 茂 | 武蔵工業大学 | 電気電子工学科 |
| カ 柿沼 弘明 | 沖電気工業(株) 基盤技術研究所 | 機能デバイス研究部 記録デバイス研究室 |
| 掛樋 豊 | (株)日立製作所 機械研究所 | 第7部 73研究室 |
| 数見 秀之 | (株)日立製作所 エネルギー研究所 | 201ユニット |
| 桂井 久美子 | 日本アイ・ビー・エム(株) 大和研究所 | 技術開発 第1技術開発 |
| 加藤 勇 | 早稲田大学 理工学部 | 電子通信学科 |
| 加藤 聖隆 | 早稲田大学 理工学部 | 電子通信学科 加藤研究室 |
| 加藤 慎一 | 日本電信電話(株) L.S.I 研究所 | 微細加工技術研究所 |
| 金沢 誠司 | 熊本大学 工学部 | 電気情報工学科 |
| 金見 壮至 | 姫路工業大学 | 電子工学科 |
| 金田 輝男 | 東京電機大学 工学部 | 電子工学科 |
| 加茂 睦和 | 科学技術庁 無機材質研究所 | 第8研究グループ |
| 川口 建太郎 | 国立天文台 | 電波天文学研究系 |
| 川崎 仁晴 | 長崎大学 工学部 | 電気情報工学科 |
| 川崎 昌博 | 北海道大学 応用電気研究所 | 化学部門 |
| 川田 博昭 | 大阪府立大学 工学部 | 電子第3講座 |
| 川西 康義 | 三洋電機(株) ソフトエナジー事業本部 | 電池事業部 アモルトン部技術課 |
| 川原 孝昭 | 三菱電機(株) 中央研究所 | エネルギー研究部 第6グループ |
| 神藤 正士 | 静岡大学 工学部 | 電気工学科 |
| 木島 弼倫 | 京都工芸繊維大学 工芸学部 | 物質工学科 |
| 岸本 茂 | 名古屋大学 工学部 | 電子工学科 |
| 北川 雅彦 | シャープ(株) 技術本部 中央研究所 | 第一研究部 |
| 北原 浩 | (株)東京電力 茨城支店 | 電ヶ崎工務所 制御課 |
| 北守 一隆 | 北海道工業大学 工学部 | 経営工学科 |
| 木下 治久 | 静岡大学 電子工学研究所 | 画像電子装置部門 |
| 木村 泰樹 | 沖電気工業(株) 超L.S.I 開発センター | プロセス第4研究室 |
| 楠 勲 | 東北大学 科学計測研究所 | |
| 神代 善正 | 石原産業(株) 中央研究所 | 機能材料研究所 |
| 黒木 幸令 | 日本電気(株) マイクロエレクトロニクス研究所 | 集積研 |
| 小泉 浩治 | 東京エレクトロン(株) 総合研究所 | 研究部 |
| 河内 宣之 | 東京工業大学 理学部 | 化学科 |
| 河野 明広 | 名古屋大学 工学部 | 電子工学科 |
| 河本 康太郎 | (株)東芝 総合研究所 | 金属セラミック材料研究所 |
| 小駒 益弘 | 上智大学 理工学部 | 化学科 |
| 小滝 正宏 | 豊田合成(株) 技術開発部 | |

| | | | |
|---|---------|-----------------------|-----------------|
| | 後藤 俊夫 | 名古屋大学 工学部 | 電子工学科 |
| | 後藤 直彦 | (財)電力中央研究所 | |
| | 小林 祥男 | 群馬工業高等専門学校 | 電気工学科 |
| | 小谷野 猪之助 | 岡崎国立共同研究機構 分子科学研究所 | 分子集団研究系 物性化学部門 |
| | 権田 俊一 | 大阪大学 産業科学研究所 | 電子材料部門 |
| サ | 坂井 篤 | 名古屋大学 工学部 | 電子工学科 後藤研究室 |
| | 榊原 雅文 | 名古屋大学 工学部 | 電子工学科 |
| | 阪本 匡 | 早稲田大学 理工学部 | 電子通信学科 加藤研究室 |
| | 崎山 智司 | 山口大学 工学部 | 電気工学科 |
| | 桜井 彪 | 山梨大学 工学部 | 電子情報工学科 |
| | 佐々木 基 | 東レ・ダウコーニング・シリコーン(株) | 開発1-3 |
| | 佐々木 和可緒 | 同志社大学 工学部 | 電子工学科 |
| | 佐藤 浩太 | 千葉大学 工学部 | 応用化学科 |
| | 佐藤 伸 | 東亜合成化学工業(株) | 電子材料開発室 |
| | 佐藤 徳芳 | 東北大学 工学部 | 電子工学科 |
| | 佐藤 保彦 | 富士写真光機(株) | 第一レンズ部 コート課 |
| | 佐野 與志雄 | 日本電気(株) 機能エレクトロニクス研究所 | ディスプレイデバイス研究部 |
| | 寒川 誠二 | 日本電気(株) 超LSI開発本部 | プロセス開発部 |
| | 佐山 勝信 | 三洋電機(株) 機能材料研究所 | 電子材料研究部 薄膜材料研究室 |
| | 重里 有三 | 旭硝子(株) ニューガラス開発研究所 | |
| | 柴田 登 | 大坂電気通信大学 | 工学部 |
| | 清水 勇 | 東京工業大学 大学院総合理工学研究科 | 電子化学 |
| | 清水 卓夫 | 東京農工大学 工学部 | 電気工学科 |
| | 清水 秀己 | 愛知教育大学 | 技術科教室 |
| | 清水 正裕 | (株)東京エレクトロン 総合研究所 | 研究部 |
| | 下川 公明 | 超LSI開発センター プロセス研究2部 | デバイス第2研究室 |
| | 下妻 光夫 | 北海道大学 医療技術短期大学部 | 診療放射線技術学科 |
| | 白谷 正治 | 九州大学 工学部 | 電気工学科 |
| | 菅井 秀郎 | 名古屋大学 工学部 | 電気工学科 |
| | 菅ノ又 伸治 | 山梨大学 工学部 | 電子情報工学科 |
| | 菅原 実 | 群馬大学 工学部 | 電気工学科 |
| | 杉山 和夫 | 埼玉大学 工学部 | 応用化学科 |
| | 鈴木 悦人 | 古河電気工業(株) 横浜研究所 | 素材研究部 |
| | 鈴木 準一 | (株)島津製作所 産業機械事業部 | 産業機械第二工場 技術課 |
| | 瀬高 良司 | 日本合成ゴム(株) エレクトロニクス研究所 | |
| | 相馬 伸一 | 富士電機(株) 東京工場 | |
| タ | 田内 省二 | (株)日立製作所 武蔵工場 | |
| | 高木 智 | キャノン(株) 生産技術研究所 | 薄膜技術第2研究室 |
| | 高木 二郎 | 日本電装(株) 日本自動車部品総合研究所 | 高木チーム |
| | 高木 秀雄 | 日電アネルバ(株) 技術本部 | 第三薄膜技術部 |
| | 高木 康夫 | 新日本製鐵(株) 第1技術研究所 | |

| | | |
|---------|---------------------|---------------------|
| 田頭 博昭 | 北海道大学 工学部 | 電気工学科 |
| 高村 秀一 | 名古屋大学 工学部 | 電気工学第II学科 |
| 田口 幹朗 | 三洋電機(株) 機能材料研究所 | 電子材料研究部 薄膜材料研究室 |
| 田久保 嘉隆 | 東京農工大学 工学部 | 応用物理学科 |
| 竹ノ内 宏司 | 新日本製鐵(株) 機械プラント事業部 | プラント事業開発部 電気計装開発Gr. |
| 橋 邦英 | 京都工芸繊維大学 工芸学部 | 電子情報工学科 |
| 伊達 広行 | 北海道大学 医療短期大学部 | 診療放射線技術学科 |
| 田中 誠 | 三洋電機(株) 機能材料研究所 | 薄膜材料研究室 |
| 田中 誠 | ㈱リコー 中央研究所 | 太田研究室 |
| 田中 光浩 | 日本碍子(株) 基礎研究所 | |
| 谷塚 昇 | 大阪府立大学 総合科学部 | 計測科学講座 |
| 玉川 孝一 | 日本真空技術(株) 技術開発部 | |
| 玉村 亮 | 旭硝子(株) ニューガラス開発研究所 | |
| 垂井 康夫 | 東京農工大学 工学部 | 電子工学科 |
| 千代川 輝 | 日立マイクロコンピュータ(株) | LSI 試作部 |
| 塚田 勉 | 日電アネルパ(株) 研究開発本部 | |
| 堤井 信力 | 武蔵工業大学 | 電気電子工学科 |
| 土岐 和之 | 日本電子(株) 産業機器事業部 | 研究開発部 |
| 徳江 郁雄 | 新潟大学 理学部 | 化学科 |
| 栃久保 文嘉 | 慶応義塾大学 理工学部 | 電気工学科 真壁研究室 |
| 栃谷 元 | 北海道大学 工学部 | 電気工学科 電気応用 |
| 友安 昌幸 | 東京エレクトロン(株) | 第4技術部 |
| 豊田 伸次 | 興和(株) 電機光学事業部 | システム技術部 画像第二技術課 |
| 豊田 浩孝 | 名古屋大学 工学部 | 電気工学科 |
| ナ 内藤 将 | 名古屋大学 工学部 | 電子工学科 後藤研究室 |
| 中尾 節夫 | 名古屋工業大学 | 電気情報工学科 丸野研究室 |
| 中川 行人 | 日電アネルパ(株) 研究開発本部 | |
| 長島 知理 | 三洋電機(株) 機能材料開発センター | 研究開発本部アモルファスデバイス開発課 |
| 永関 一也 | 東京エレクトロン(株) プロセス技術部 | |
| 中村 洋一 | 日本工業大学 工学部 | システム工学科 |
| 中村 義春 | 慶応義塾大学 理工学部 | 電気工学科 |
| 中山 喜萬 | 大阪府立大学 工学部 | 電気工学科 |
| 西国 昌人 | 三洋電機(株) 機能材料研究所 | 薄膜材料研究室 |
| 西村 栄一 | 東京エレクトロン(株) | |
| 西村 幸雄 | 九州大学 機能物質科学研究所 | |
| 二宮 国基 | 三洋電機(株) 機能材料研究所 | 電子材料研究部 薄膜材料研究室 |
| 野崎 秀俊 | (株)東芝 総合研究所 | 機能部品研究所 |
| 野本 幸治 | 大分大学 工学部 | 電気工学科 |
| 野呂 正 | 三菱電機通信機製作所 | 応用電子装置製造部 デバイス技術1課 |
| ハ 白玖 久雄 | 三洋電機(株) 機能材料研究所 | 電子材料研究部 薄膜材料研究室 |
| 橋本 英明 | 中部電力(株) 電気利用技術研究所 | 第二研究室 |

| | | |
|---------|----------------------|---------------------|
| 長谷川 正 | 名古屋大学 工学部 | 材料プロセス工学科 |
| 旗野 嘉彦 | 東京工業大学 理学部 | 化学科 |
| 八田 章光 | 京都大学 工学部 | 電子工学科 板谷研究室 |
| 英 貢 | 豊橋技術科学大学 第三工学系 | 基礎電気電子工学 |
| 濱本 誠 | 大分大学 工学部 | エネルギー工学科 |
| 林 康明 | 日本真空技術㈱ 超材料研究所 | |
| 播磨 弘 | 京都工芸繊維大学 工芸学部 | 電子情報工学科 |
| 伴野 達也 | 東京大学 工学部 | 物理工学科 |
| 菱川 善博 | 三洋電機㈱ 機能材料研究所 | 電子材料研究部 薄膜材料研究室 |
| 日高 亮太 | 新日本製鐵㈱ 機械プラント事業部 | プラント事業開発部 電気計装開発Gr. |
| 平松 美根男 | 名城大学 理工学部 | 電気電子工学科 |
| 廣瀬 千秋 | 東京工業大学 資源化学研究所 | |
| 広瀬 全孝 | 広島大学 工学部 | 第2類 |
| 広部 嘉道 | ローム㈱ メモリー製造部 | |
| 福居 康 | 日新製鋼㈱ 鉄鋼研究所 | 表面処理研究部 表面処理第2研究室 |
| 福田 信弘 | 三井東圧化学㈱ 総合研究所 | 技術研究所 |
| 福永 陽一 | ㈱幸和クリエイター | |
| 福政 修 | 山口大学 工学部 | 電気工学科 |
| 藤井 靖彦 | 東京工業大学 原子炉工学研究所 | |
| 藤田 秀樹 | 日新電機㈱ | 半導体プロセス開発部 |
| 藤田 寛治 | 佐賀大学 理工学部 | 電気工学科 |
| 藤本 孝 | 京都大学 工学部 | 物理工学教室 |
| 藤山 寛 | 長崎大学 工学部 | 電気情報工学科 |
| 船戸 康幸 | 東北大学 工学部 | 原子核工学科 |
| 冬木 隆 | 京都大学 工学部 | 電気工学第2教室 |
| 古橋 秀夫 | 名古屋大学 工学部 | 電子工学科 |
| 細川 直吉 | 日電アネルバ㈱ 研究開発本部 | |
| 堀内 進 | 日本鉱業㈱ 礪原工場 | 特殊金属材料生産部 電材加工品生産課 |
| 堀江 通和 | 三菱化成㈱ 総合研究所 | 薄膜研究所 薄膜Cgr. |
| マ 真金 光雄 | 名古屋大学 工学部 | 電子工学科 後藤研究室 |
| 真壁 利明 | 慶応義塾大学 理工学部 | 電気工学科 |
| 松井 安次 | 三菱電機㈱ 中央研究所 | エネルギー研究部 |
| 松浦 正道 | 日本真空技術㈱ 筑波超材料研究所 | |
| 松岡 茂登 | 日本電信電話㈱ 光エレクトロニクス研究所 | 光材料研究部 |
| 松木 雄二 | イワタニプランテック㈱ | スールメタル部 |
| 松崎 清司 | 東京農工大学 工学部 | 電子情報工学科 |
| 松田 良信 | 長崎大学 工学部 | 電気情報工学科 |
| 松見 豊 | 北海道大学 応用電気研究所 | |
| 松村 昭作 | 武蔵工業大学 | 電気電子工学科 |
| 松本 治 | 国際電気㈱ 電機第三設計部 | |
| 松本 敏之 | 九州東海大学 工学部 | 電気工学科 |

| | | |
|---------|-----------------------|---------------------|
| 松本 陽一 | 三菱重工業(株) 高砂研究所 | 流体研究室 |
| 三重野 哲 | 静岡大学 理学部 | 物理学科 |
| 溝口 計 | (株)小松製作所 研究本部 | レーザ開発室 |
| 南 繁行 | 大阪市立大学 工学部 | 電気工学教室 |
| 宮口 耀一郎 | (株)リコー 中央研究所 | 材料デバイス研究センター 380研究室 |
| 三宅 正司 | 大阪大学 溶接工学研究所 | 第1部門 |
| 宮地 堅司 | 三井東圧化学(株) 総合研究所 | 技術開発研究部 |
| 宮本 和弘 | スタンレー電気(株) 筑波研究所 | 研究開発グループ |
| 宗像 毅 | 東海大学 工学部 | 電気工学科 |
| 村岡 克紀 | 九州大学 大学院総合理工学研究科 | エネルギー変換工学専攻 |
| 村田 一之 | 荏原実業(株) 川崎事業所 | 開発課 |
| 村田 潔 | 日本石油化学(株) | |
| 森田 達夫 | シャープ(株) 技術本部 中央研究所 | 第4研究部 |
| ヤ 矢倉 信也 | 佐賀大学 理工学部 | 電気工学科 |
| 安井 寛治 | 長岡技術科学大学 | 電気系 |
| 安島 廣行 | 凸版印刷(株) 総合研究所 | |
| 安田 清和 | 大阪大学 工学部 | |
| 安田 修朗 | (株)東芝 総合研究所 | |
| 柳川 文彦 | アプライドマテリアルズジャパン(株) | |
| 矢野 弘 | 富士通(株) プロセス開発部 | |
| 山崎 敏規 | コニカ(株) サブライ生産事業部 | |
| 山下 正文 | 東京理科大学 理工学部 | 物理学科 |
| 山田 千樫 | 岡崎国立共同研究機構 分子科学研究所 | 分子構造研究系 |
| 山部 長兵衛 | 名古屋大学 工学部 | 電気学科 |
| 山本 学 | 東京農工大学 工学部 | 応用物理学科 |
| 湯浅 邦夫 | 東芝ライテック(株) 研究所 | 研究第2担当 |
| 湯浅 基和 | 積水化学工業(株) 総合研究所 | セラミックス研究所 |
| 横山 誠一郎 | 東洋紡績(株) 総合研究所 | 第6研究部 |
| 吉岡 俊博 | 日本電気(株) 機能エレクトロニクス研究所 | ディスプレイデバイス研究部 |
| 吉田 隆 | (株)富士電機 総合研究所 | 電子デバイス研究所 |
| 吉田 貴彦 | 日本電装(株) 日本自動車部品総合研究所 | 内藤チーム |
| 吉田 善一 | 松下電器産業(株) 生産技術研究所 | プロセス開発部 |
| 吉本 昌広 | 京都大学 工学部 | 電気工学第2 |
| 米須 章 | 琉球大学 工学部 | 電気工学科 |
| ワ 和賀 聡 | アルプス電気(株) 中央研究所 | 第一研究室 |
| 渡辺 猛志 | (株)日立製作所 生産技術研究所 | 第2部 |
| 渡辺 英夫 | 仙台電波工業高等専門学校 | 電子工学科 |
| 渡部 優 | 東京工科大学 | 電子科 |
| 渡辺 征夫 | 九州大学 工学部 | 電気工学科 |
| 和述 浩一 | 松下電子工業(株) 電子総合研究所 | 第三研究部 第三研究室 |

編 集 後 記

プラズマエレクトロニクス研究会が分科会に発展し、本年4月よりその活動を始めました。この会報も研究会からの流れをそのまま受け継いで、「プラズマエレクトロニクス」No. 12として分科会としての会報第1号としました。

今後、この会報も分科会に属する様々な分野の会員の方々へ役に立つものに発展させていきたいと考えています。会員の皆様の積極的なご意見を当分科会役員までお寄せ下さい。